

購読の申し込みは
日本医労連へ

購読料 年間1,500円(送料込)
(組合員の購読料は組合費に含む)

送金口座 中央労金荒川支店(普通預金)1123296
郵便振替 00160-6-84866

ホームページ <http://www.irouren.or.jp/>
電子メール n-ask@irouren.or.jp

医療労働者

医療・介護・福祉労働者の生活と権利、国民の命と健康を守る

1755号・1756号合併号
2021年5月27日

編集・発行
日本医療労働組合連合会
〒110-0013 東京都台東区入谷1-9-5
日本医療労働会館3階 TEL03(3875)5871

発行 毎月2・4木曜日
(昭和36年9月15日第三種郵便物認可)

コロナ禍から医療・介護・福祉労働者まもり大幅増員・処遇改善を!

ナースウェーブ介護アクション

全国各地で

長野地域民医労スタンディングの様子



長野

長野県医労連は、5月8日に「第32回長野県看護集会」をオンラインで開催し、130人が参加しました。記念講演では、勤医会東葛看護専門学校・山田かおる副校長が「ともに育ち合う職場づくり～コロナ禍での看護教育の現場から～」と題して講演。講演後は、各職場報告をリレー形式で発表しました。例年行っているデモ行進や署名宣伝行動はできませんでしたが、集会後には、各人・各会場でアピールボードへの記入やスタンディングなどの行動を行いました。

5月12日、愛知では県医労連、愛知民医連、自治労連愛知県本部でつくる「ドクター・ナース・介護ウェーブ実行委員会」が、記者発表と県庁前でリレートークを行い、大幅増員と人員体制の整備などを求めました。10団体から26人が参加し、報道機関11社が取材しました。愛知県医労連が4月28日から取り組みを始めた「#看護師の五輪派遣は困ります」のツイッターデモは5月17日時点で51万ツイートを超え、共感の声が日本中に広がっています。



愛知

愛知の記者発表の様子

熊本県医労連は、5月8日に看護・介護ウェーブくまもとをオンラインで開催。4組織20人が参加しました。講演では、日本医労連・川上真理中央執行委員が「権利を知って、働き続けられる職場をつくらう!」と題して講演。今年度改定した女性の権利ノートを使って、母性保護や女性の権利について学習しました。



看護・介護ウェーブくまもとの様子

熊本



岡山

岡山駅頭での街頭宣伝の様子

岡山県医労連福祉部会は、県に「緊急事態宣言」が発令される前日の5月15日、日本医労連の「介護を良くするアクション月間」の提起に呼応して、岡山駅頭で街頭宣伝を行い、5人が参加しました。

参加者は、最大限の感染対策をしながら、「コロナ感染から介護労働者を守って」などのプラカードを掲げてアピール。通行人より激励の声が寄せられる一幕もありました。「医療・介護・福祉を拡充してください」リーフ入りポケットティッシュを100個配布しました。

北海道医労連では、2月からツイッター上で取り組んできた「#100日後に一揆する看護師」キャンペーンが100日目となる5月12日、同庁前行動を予定していましたが、内容を急遽変更。オンライン記者発表を行い、看護師8人が参加、報道機関4社が取材しました。参加者は、新型コロナウイルスが拡大するなかで、「自分が無症状のま

ま、感染源になるかもしれない」という不安の中で働いていることを報告し、「安心して看護するために定期的なPCR検査が必要」と訴えました。また、記者会見後に取り組んだツイッターデモ「#看護は自己犠牲じゃない」はトレンド入りし、5月17日時点で5万を超えるツイート数で注目を集めました。

2021年「看護の日・看護週間行動」と「介護を良くするアクション月間(5月)」は、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、集会延期や内容を急遽変更しながらも、全国各地で取り組まれました。寄せられた報告から一部をご紹介します。



北海道

北海道医労連のオンライン記者発表の様子

日本医労連は、5月14日、巣鴨駅頭で中央社保協の「4の日宣伝」と合同で「介護を良くするアクション」行動に取り組みました。アクション行動では、国の責任で「コロナから介護を守って」「コロナ禍での介護崩壊は許さない」と訴え、署名の協力を呼びかけました。「介護を守れ」の訴えは、道行く人の反応も良く、足を止めて署名に協力していただきました。また、スタンディングボードを使用したアピールも効果的で、写真を撮る人やボードを持ち帰る人、対話を通じて介護現場の実態に共感を得るなど、「介護を良くするアクション」行動の取り組みに弾みがつきました。



東京

「介護アクション月間」での巣鴨駅前宣伝の様子



全国で5・3集会

憲法を守る決意

戦争への痛切な反省の上にたつて1946年11月に公布された日本国憲法は、5月3日で施行74年を迎えました。3日憲法を守り生かそうとアピールする集会や行動が全国各地で行われ、国会正門前では「5・3憲法大行進」が開かれ、オンライン配信されました。参加者は、コロナ禍での改憲を許さず、憲法を守り生かす政治への転換を呼びかけ、愛をよう政治！いのちを守り平和をつくらうなどのプラカードを掲げ訴えました。オンライン配信による参加型の音楽イベントとして企画された「モート合唱」では、プロ・アマ問わず動画が寄せられ、賛同の演奏や歌声が配信されました。

核禁条約参加の日本へ

2021国民平和行進スタート

5月6日、核兵器禁止条約が発効して初めての2021年原水爆禁止国民平和行進（東京広島コース）がスタートしました。日本政府に禁止条約参加を求め、8月6日、9日の原水爆禁止世界大会に向けて、全国を歩き世論を広げます。東京からの出発は緊急事態宣言を受けて「歩く」行進を中止し、宣伝カーと車を連ねての行進を実施しました。

オンラインで開かれたスタート集会は、東京・江東区の夢の島公園にある第五福竜丸展示館とつないで、国民平和行進の歴史を振り返りながら行われました。

5日に北海道の礼文島を出発した平和行進の様子や、各団体のメッセージ、ビデオメッセージ、取り組みが紹介されました。

仲間とともに社会を変える！

全労連ユニオニュースアカデミー開催



全労連青年部は、5月15日にユニオニュースアカデミー2021を51人の参加で開催しました。自分の身近で一緒に活動する仲間を増やす手法を学び、オカナイサーとして一歩踏み出すことを目的として、参加者は「コミュニティオカナイサー」についてや関係構築の手法についてやうけたあと、3グループに分かれて演習を開始。労働組合に対する思いの聞き取りをスタートに共有する価値観を見つめ、共に行動することをゴールに演習を行いました。目的を持ち、相手の話を引き出しながら、共通の価値観を見出していく演習は、学びのある時間となりました。



愛知県中央メーデーでは、白川公園にて集会が行われ、会場に1,000人、県内5会場での地域メーデーを合わせると2,000人が参加しました。集会前には、愛知社協の仲間と署名宣伝行動に取り組み、医労連からは青年役員を含め11人の参加で、「いのち署名」29筆が集まりました。愛知・みなと医療生協労組作成の「いのちまもる」プラカードは、デコレーションコンテストの横断幕・プラカード部門で優秀賞を獲得しました。

東京・代々木公園で開催の中央メーデーでは、東京医労連女性部がオリジナルハッピーを着て決意表明。いのちと健康を守るうと呼びかけ、「全国一律最賃音頭」を披露し会場を盛り上げました。



北海道勤労伏古10条クリニック支部では、メーデーは休診。組合員問わず参加があり、メーデーのオンライン配信を視聴しました。折り紙で鶴やハートを折ったり、要求を書いたりして貼り、横断幕を作成しました。



たたかうメーデー 大切なのは一人一人の声



いますぐ最賃1500円へ



長野県中央メーデーではイベント企画として「カード＆メッセージコンテスト」を実施しました。

新組合 結成

大生食品工業労働組合

石川県金沢市で、医療機関・福祉職場に治療食を製造・販売している大生食品工業で労働組合が結成されました。5月11日に結成大会が行われ、石川県医労連に加盟となりました。

労働相談がきっかけに

職場内に、暴力をふるう人が放置されている状況があり、田中執行委員長が数年前

から県労連に相談をしていました。昨年、労働組合づくりのために学習を積み重ねていたところ、年末に会社から夏のボーナスカットが提案され、一挙に組合結成となりました。

暴力のない職場で働きたい
ボーナスのカットは困る

結成大会では、田中執行委員長が「経過と方針、役員体制、要求書、規約、予算」を提案し、「普通に働きたい。今まで辞めていった人がたくさんいる。暴力のない職場をつくらせたい。会社から提案されているボーナスのカットをやめさせたい」と語りました。

結成大会には、全国の仲間



結成大会の様子

からたくさんさんの激励メッセージが届き、日本医労連の米沢哲組織共闘局長もオンラインで激励しました。労働者の権利が守られ働きやすい職場づくりを、一緒に頑張りたい！

書記局員紹介

大久保 菜央さん

組織共闘局



5月1日より、日本医労連書記局員となりました大久保菜央と申します。

私の労働組合との出会いはドイツでの会社員時代になります。それまで組合経験のなかった私は、連帯によって実現できることがあること、また常に組合と共にあるという意識が大きな安心感につながることを実体験として持ちました。日本に帰国してからは、病と

人権を扱う博物館で学芸専門職員として働く中、民主的な職場環境を手に入れる必要性を感じ、分会を立ち上げ、組合活動をしてまいりました。

長いたたかひの歴史を持つ日本医労連において、組合員が安全な職場で安心して暮らせる環境を整えることに尽力していきたいと考えております。どうぞよろしくお願いたします。



●保育所の委託業者の件で、組合には大変お世話になり、その結果、一度契約した業者を解約することができました。私たちは退職に追い込ま

れることはなくなりました。組合が「雇用を守る」と終始言って下さり感謝でいっぱい。 (岐阜・山下英子)

●第92回奈良県メーデーがWEB開催になりました。仕事の都合で参加できなくて残念です。コロナ対応で大変です。 (奈良・八尾豪)

●禁煙を始めて早7カ月。未だに禁煙期間を指折り数えています。大分慣れて来たと思つた矢先、タバコを吸う夢を見ました。まだまだ気を緩めてはいけないとの夢のお告げだと改めて気を引き締めています。 (新潟・倉茂裕子)

(岡山・岡本智美)

【パズル解答】
1754号の答えは「タイオンケイ」でした。正解者の中から抽選でクオカードを贈呈します。
【応募方法】
①組合(病院)名、②職種、③氏名、④郵便番号、⑤住所を記入し、解答を6/17(木)までにご応募ください。「読者のページ」もご寄稿下さい。
【応募先】
〒110-0013 台東区入谷1-9-5
「日本医労連教育宣伝局」FAX 03-3875-6270
e-mail: n-ask@irouren.or.jp

●感染者が増える中、先の見えない不安から早1年。久しぶりに友人に会いました。元気にしていて安心したのと同じに、ネットに書かれていることはいい加減なことばかりだなとコロナの話をしました。ネット社会は良い面もあるけど、うわさは怖い。 (岡山・岡本智美)

■ヨコのカギ

- 働くこと。カ……
- 竹の若い芽
- ♪娘さんよく聞けよ……にやほれるなよ
- ……を天に任せる
- 呼び……。風……
- 太鼓と笛。……隊
- 保つこと。現状……
- 緑茶や紅茶の渋み、苦みの成分
- 宵越しの銭を持たぬ人
- 日本の国鳥
- 健康なようす。空……
- サト……。ジャガ……
- 海岸や砂漠にある
- 収集家。切手……
- 狐色に焼いた食パン
- 民謡の一種。米山……。相撲……



- 【問題】二重ワクの文字を、A～Fの順に並べてできる言葉は、なに？
- ……雨
- 「章魚」の読み方は？
- 悩みなどなく何も考えられないノンキな人
- ねばり強く続ける気力
- 豚肉料理の一つ
- 70歳の祝い
- 天然痘の種痘法発見者
- 相場の人為的な安定策
- 大昔の土製の焼き物
- 冗談……を飛ばす
- お客様です
- 見出しの一覧
- 京都・奈良・鎌倉など
- 牛……料理

医労連共済だより

継続手続きも終了し、これからの新規加入は新しい事業年度の7月1日効力発生分となります。共済説明会を軸に共済加入を進めましょう。

医労連共済で負担軽減
暮らしの備えの基本は、万が一の時に残された遺族に必要な保障を用意することです。

必要な保障とは、今後の遺族の生活費・教育費などの支出から、遺族の収入や貯蓄を差し引いた金額です。子どもが小さく貯蓄が少ない時は保障を大きく、子どもが独立すれば保障は小さくします。しかし医労連共済の

医療の眼

新型コロナウイルス感染症拡大の第4波が深刻化しています。コロナ患者が急増している大阪は、感染者の10%しか入院できないという異常事態となっており、自宅に亡くなる方も相次いでいます。感染力が強いとされる変異株の流行が全国に拡大し、救えるはずのいのちが救えない状況がうまれています。

しかし、菅政権からは前回の2カ月前に及ぶ緊急事態宣言で感染を抑え込めなかったことに対する具体的な説明はなされていません。政府の対策のどこに問題があったのか、国民に明らかにする必要があります。これまでの対策を見ても、感染拡大を抑えるための積極的なPCR検査を行わず、自治体任せを続けている。医療機関に対する減収補填も行わないため、現場はひっ迫し、医療従事者も疲弊しています。無策であるといわざるを得ません。感染の拡大に応じた病床確保が進まず医療崩壊に直面し、3度目の「緊急事態宣言」を出さざるを得なくなつた原因は、PCR検査の抑制や施設・設備・機器・資材とともに、感染症に対応するマンパワー確保が最大の課題であったことは明らかで

いまこそ大規模検査の実施と医療機関への減収補填を

PCR検査の抑制は失策

厚生省は昨年5月、PCR検査について「広範な検査」を実施すれば偽陽性が非常に多くなり、「医療崩壊を招く」として内部文書を作成し、菅政権の中枢に示して、当時広がっていたPCR検査の拡充を求める声や動きに対して抑えにかかっていたことが、最近になって明らかにになりました。しかし、感染症対策において、感染源を突き止めて感染の連鎖を断つためには、PCR検査の拡充は極めて重要です。適切な検体処理と手順のもとでのPCR検査は、検体にウイルスが存在するかどうか確実に判定できる検査法であり、これほど信頼性の高い検査法はほかにありません。PCR検査があたかも無駄であるといわんばかりの政府の対応が、いま重大な弱点となって表れているのです。

本気でPCR検査と保護・追跡の推進を

日本医労連は第7次緊急要請(4月16日)において、検査体制を抜本的に強化し、PCR検査と保護・追跡の推進を政府の基本的な政策に位置づけることをあらためて求めています。具体的には、①医療機関、介護施設等

については、感染者が判明していない場合でも、すべての職員に頻回・週1回程度の定期的なPCR検査を行うとともに、検査対象を利用者にも広げること、②感染状況を的確に把握するため、国が設定するモニタリング検査を1日10万件以上に引き上げ、対象とする地域や集団を幅広く設定し、協力を求めることもに、希望者全員にPCR検査を実施すること。感染拡大の予兆や感染が判明した地域や集団に対しては、十分な補償と一体的に感染防止対策を図ること、③医療従事者の負担軽減と大量検査を可能とする全自動のPCR検査機器の導入などを進め、社会的検査を機動的に実施できるようにすること、などです。

鎌倉 幸孝